

# 辻川界限

柳田國男・松岡家頭章会会報 第6号



## 市川筋と揖保川筋の盆行事について

龍野歴史文化資料館資料調査委員長

地 主 喬

### 柳田國男の「あの世観」

柳田先生は六十四年前の戦争に負けた年、「祖先の話」という本を書かれました。その祖先の話の中心は何かと言うと、家が続いていくんだらうか、祖先祭祀はどうなっていくんだらうか、という疑問に答えようとして書かれた本かと思います。

……中略……

人が亡くなると魂が、身体から出ていく。だから残ったものは亡骸(殻)です。そして、その魂はどこへ行くのかというと、そんなに遠くに行きません。十万億土の彼方などに行かなくて、すぐ皆さんの近くの山に行くのと違いますか、人々が住んでいる村が見える近くの山に行くんじゃないんだらうか。そして盆と正月に時を決めて子孫のところに戻ってくるんじゃないんだらうか。そして子孫の色々な供物を受け、それから歓待をされ、家の状態を見て、安心して、これならばこの家はこれ

からも皆元気で続いていきますよということを残して、また去って行ったんじゃないのか。そういう事を正月と盆に繰り返して、現在にいたっているんじゃないんだらうか……。

仏教では、十万億土の彼方へ行くと言います。草葉の陰から見ると言いません。しかし「亡くなった草葉の陰から見るから、悪いことをしたらいかんぞ」と僕なんかはよく言われたんです。そうするとその草葉の陰というのはこの村の山です。山に居りますよ。死んでも山に靈魂はおります。そして皆さんの子孫のすることを見ておきますと。そういう事を書いておきます。

### 市川筋の盆行事

江戸時代の『播陽万宝の知恵袋』という本の中にこんな歌があるんです。「今もなお此神垣をあふぐ也むらがり集う棚原の神」——今もなおこの玉垣の中の方をみると、そこに一杯群がるように棚原の神がおりま



すーという歌をうたっているんです。大正時代によく歌われた神崎小唄に「盆が来た 来た 棚原山に 踊れ 恒屋の櫃倉ひつぐらに」というのがあります。棚原山に盆がきました。棚原山にいる神が皆、里へ帰ってきます。そして人々は恒屋の櫃倉神社で踊って、満足してもらって還って行ってもうらんだと、歌っているんです。そうすると、死んだら最後は棚原山に行くんだと。年忌供養を受けて浄化されて麓からだんだん上にあがっていくんだと。そして三十三年たったら仏さんから神さんになる。神さんになっても盆になったら帰ってくるんですよ。子孫はどうするのか、家々で供物をして、その後盆踊りを

して、踊ってあの世へ送り還すのだということが言えるんじゃないかと思えます。

柳田先生がおっしゃっている「時を決めて盆と正月に帰ってくる」というのが今も信じられている。

……中略……

この町の福田の大歳神社でも、やっぱり八朔の晦日になったら恒屋の櫃倉神社と同じ踊りをやっています。盆踊りをしてお送りしています。

### 夢前川筋の盆行事

夢前川筋ではどうなのかと言うと、いまだに家々はことと同じで、供物を蓮の葉とかサトイモの葉に包んで川とか墓にもって行きます。そして線香をたいて送ったりします。ところが子どもは松明に火をつけて、山の上上がりします。そして山の上で火を振って、盆が終わりましたよとお還りになりなさいよと松明を振って別れをします。

### 揖保川筋の盆行事

たつの市御津町中島は揖保川の河口にあり、火揚げというものがある。二十メートルぐらい（今は十メートルぐらい）の立派な柱を立てまして、その上に竹でジョウゴを作って、

そのジョウゴの中に麦わら等燃える物を一杯入れ、真ん中に笹に御幣を付けて立てます。投げやすいように石などを入れた小さな松明（投げ松明）を家々で作って、揖保川の河原にやってきます。八月の十五日にしたり、七日（七日盆）にやったりしています。夕方になったら子どもがその松明に火をつけて、投げ松明で上へほり上げるんです。そして燃え上がったら、バサッと西の彼方の方へ倒します。そして祖先が還りましたとなる。それが火揚げです。

そのような火揚げをいつ頃からしていたかと言いますと、御津は姫路藩と違って丸亀藩でございます。丸亀藩が一八三九年、天保の改革が始まるちょっと前に『地誌条目』（今でいう町政要覧みたいなもの）を作っています。それに火揚げのことを書いています。どんなこと書いているかといったら、「かの山に於いて火揚げいたし、追善をいたし、精霊を送らばその祟りなしという」などと書いています。一九世紀半ばの天保の改革の頃には、揖保川の海岸では火揚げをしていたことがわかります。今は下火になっています。今はなかなか子供が上へよう揚げないので、それでだんだん下火になっ

ております。

……中略……

姫路市勝原区朝日谷では、ちょうど京都のお盆行事、五山の送り火に対抗するかのようになっています。盛大に火揚げをいたします。姫路市はこの火揚げを市の文化財に指定しており、八月十五日にこの火揚げをいたします。

……中略……

姫路市太市には破磐やぶい神社があります。その破磐神社では、八月十五日にはホーテントウ祭があります。そのホーテントウ祭に行くと、境内にトンドの櫓を組んで火を焚くんです。それに子どもが「盆を送るんやで」と松明をつけて走り回ります。子どもがつけて、いよいよとなった時に今度は厄年になった人が、三メートルぐらいの大きな松明に火をつけて、高い所にある舞殿へ階段をあがっていきます。その舞殿に今年の厄年の人が皆集まりまして、歌に合わせてエント、エント（いんで、いんでー帰って、帰ってー）と歌を歌いながら、その狭い舞殿で十何人かの人が、ドンドン、ドントンその場に何か悪い魔がおって、を送り出すように叩いて回ります。人々はそれをそばで見ていて、火が飛んできて体

に付いたら、人の体についている悪い虫が皆死んでしまうという。エント、エントとごっつい馬力でやります。する理由については、次のように言っています。

破誓神社の裏に「峯相山 鶏足寺」というのがある。二千人ぐらいの人が秀吉の焼き討ちに遭ったのです。非業の死を遂げた人が盆に帰ってきても誰も祀る人がいません。その霊が皆あの世にいななんだからえらいことになる。どんなことになるのかといたら、虫が湧く、ウンカが湧き飢饉となる。

……中略……  
ウンカを追い出す。悪いものを追出す。そうして追い出して、「非業の死を遂げた人々の怨霊が盆に残らんように、祖先が帰ったと同じようあの世に還ってもらうためにするんや」と、こんなこと言うんです。この行事は西脇という部落だけがあります。

……中略……  
太子町の原に行ってみたら八月の十五日に、今は十四日の晩に火祭りをするのです。ここもやっぱり秀吉にやられた所です。

斑鳩寺にも盆の十五日になると、七つの部落の各々が五メートルぐら

いの先に松明を付けて部落ごとに入ってきて、お寺のぐるりを三遍回って送り火をして、それを本堂の前に立てる。今は幡立てをします。

……中略……  
たつの市の恩徳寺というところにサイレンボーズ(祭礼坊主・籠松明)があります。籠で松明(提灯)を作って、棒の先にその松明を付けて、ちよどそれがボーズみたいなので、サイレンボーズといえます。各部落ごとに太鼓をたたきながら松明を持って、恩徳寺に入って来ます。そして恩徳寺で法伝踊(法伝とは、南無阿弥陀仏ということ)をするので

法伝踊が終わったら、どんどん鉦や太鼓をたたく中で、そのサイレンボーズで叩きあいをします。提灯が四方空中を乱れ飛ぶわけです。三十分くらい叩きあいをすると全部火が消えます。それが九時ぐらいです。それで今年の恩徳寺の盆は終わりましたとなるわけです。近くに城山に続く葛蒲谷がある。

……中略……  
サイレンボーズを龍野では、虫送りだと言っているのですが、なぜ十五日にそういう事をして虫送りをするのかと思ったら、やはり非業の死

を遂げた人がいて、それが十五日にお還りになるのと一緒に虫(ウンカ)も持って行って欲しいというので、十五日に人々は「虫送り」と、言い出したのではないかと思います。

……中略……  
新宮の送り火は、新田山に地元の新田の人が上がって、松明を焚くのです。ところが山の上にあがって松明を焚くのは新田の人だけです。そして他地区の人々は下で大きな松明を作り、地区内を回っていくのです。この地区には赤松氏が亡んだ城山があります。

……中略……  
平安時代から非業の死を遂げた人が怨霊となって、人々を苦しめ、死



に至らしめると言う御霊信仰というのがあります。  
「怨霊」を鎮め災いを起こさせないようにする御霊信仰が揖保川筋には非常に根強く残っているんじゃないんだろうかなと思います。

## 結 び

大きな火祭りをするところは赤松氏とか、豊臣秀吉との戦争があったところで、非業の死を遂げた怨霊が残ったら困るという事で、人々は祖先を送っておいた上に、大きな火祭りで怨霊が残らないように願ったんじゃないかなと思います。

市川筋では、祖先を帰すのが主で、またあまり大きな戦争もなかったの、非業の死を遂げた人も少なかったの、施餓鬼の方がちょっと従になっっているのではないのだろうかかなと思います。

それに対して揖保川筋は、祖先も盂蘭盆会で送りますが、それ以上に非業の死を遂げて残った三界の万霊が悪さをしては困るので、大きな火祭りをして、送ったんじゃないんだらうかなあと思ったりするのです。

……中略……  
このように盆行事は違っていますが、祖先が盆になったら帰って来る信仰

は同じです。それをお祀りして送り還すという宗教儀式が、掛保川筋も市川筋も一緒だと思うのです。時代がどう変わっても一緒じゃないかと思いません。皆さん死んだ人を仏さんと言いませんか。仏さんというのは、お釈迦さんとか、阿弥陀さん、薬師さんとかと一緒にですよ。だから人が死んだら「仏になる」と言うのは、そういうお釈迦さんとか阿弥陀さんとかと同じになるのです。だから一生懸命祖先をお祀りするんじゃないんだらうかと思うのです。このように現象がちがっても、祖先を崇拝してお祀りしていくということが、市川筋も掛保川筋も同じだろうなと思います。家が続き、祖先祭祀がいつまでもされることを祈ります。

講師プロフィール

地主 喬（じぬし たかし）

現在の淡路市生まれ。広島文理科大学文学部卒業後、兵庫県内の公立高校教員を経て兵庫県立博物館の建設に携わり、館長補佐就任。その後関西国際大学、武庫川女子大学などで教鞭をとる。

現在、龍野歴史文化資料館資料調査委員長、宝塚市文化財審議委員長、姫路市文化財審議委員などを務める。



館だより

春の特別展

展覧会

○松岡映丘画稿展―動物編―  
今年の秋の特別展のテーマは「動物」です。松岡映丘の画稿に描かれている動物の描写に注目してください。



〈桃太郎〉

期間 3月6日（土）

～3月31日（水）

会場 柳田國男記念館2階

岩田健三郎版画教室

版画家、岩田健三郎氏の指導で、年賀状の版画教室を開きます。丁寧に教えていただけますので、絵の苦手な方でも大丈夫です。

日時 平成21年12月6日（日）

14時から

場所 記念館2階講義室

費用 材料代 一枚 百円

持参品 筆記用具、彫刻刀をお持ちの方は持参してください。彫刻刀をお持ちでない方はお申し出下さい。



※小学校低学年の方は保護者の方と一緒に参加してください。

※事前申し込みが必要です。必ずお電話かご来館にてご予約ください。会員以外の方は入館料が必要です。

申込み用 0790-22-1000

会員募集

（財）柳田國男・松岡家顕彰会は、柳田國男・松岡家の業績や功績を一般に知らしめ、これを後世に伝えると共に、学術文化研究を助成し、教育文化の振興に寄与することを目的として設立された団体です。

- ・法人会費 一〇、〇〇〇円
- ・個人会費 一、〇〇〇円

法人・個人の会員を募集しております。ご加入いただけますようお願い申し上げます。

また、本年12月末日に更新時期を迎えられる会員の皆様につきましては、ぜひ、更新していただき、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※表紙題字（辻川界隈）は版画家・岩田健三郎氏の直筆です。

（財）柳田國男・松岡家顕彰会記念館

〒六七九-1200

兵庫県神戸市福崎町西田原二〇三八-11

TEL〇七九〇-1111

TEL〇七九〇-1111

休館日 毎週月曜日と祝日の翌日

入館料 一般 二〇〇円 学生 一五〇円

小人 一〇〇円

開館時間 午前9時～午後4時30分